＜被表彰者の功績概要＞

（１）教職員

①　三浦　樹理（朝日町立朝日小学校　指導教諭）

本県小学校教諭として着任以来、社会科の学習において地域の出来事や産業を通じて、地域と子どもとのつながりを大切にする教育実践に積極的に取り組んでいる。

平成２０年度から２年間、香港日本人学校において、日本の子どもたちに日本の文化を伝えるなどの教育に尽力し、そこで学んだ日本の地域教材発掘の大切さをその後の教育活動に生かした。

平成２８年度には県教育委員会「わかる授業促進事業」における実践推進校の推進リーダーとして、所属校だけでなく地域内に教育実践を発信し、教職員の指導力向上に寄与した。

また、指導教諭として、若手の育成を中心に校内の研修に力を注いでおり、周囲からの信頼は厚く、職場の要としての責務を果たしている。

②　増井　克充（伊勢市立中島小学校　教諭）

本県小学校教諭として着任以来、児童理解に基づく授業実践を重ね、体育科の指導を核として、目指す児童像・学校像の実現に邁進している。

体育科における児童の体力向上と生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質能力の育成を目指した実践研究は、周囲から高く評価され、伊勢市内教職員の指導技術の向上に大きく寄与した。

また、平成２８年度伊勢度会人権教育実践交流会において発表した体育科の実践発表は、域内の教職員の体育科指導の在り方に大きな影響を与えた。

現在も、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科の実践研究に取り組んでおり、市内の体育科教育の充実に貢献している。

③　清長　隆司（津市立一身田中学校　主幹教諭）

本県中学校教諭として着任以来、高い見識と優れた指導力をもとに、生徒指導主任や学年主任、地域連携担当、野球部顧問として取り組んでおり、生徒や保護者、地域、同僚職員から絶大な信頼を得ている。

平成２８年度からは津市の体力向上推進委員として、市内の小中学校・義務教育学校における体育科授業の改善や充実に向け、指導的な立場で積極的に関わるとともに、これまでの研究実践をまとめた活動事例を「津市版　楽しい運動例」に寄稿し市内各学校に発信するなど、市内の児童生徒の体力向上及び体育科の授業充実に大きく貢献した。

また、現任校においても、学校経営上の諸課題の未然防止や課題解決に積極的に対応するなど、信頼される学校づくりに貢献しており他の教員の模範となっている。

④　河村　知博（伊勢市立五十鈴中学校　教諭）

本県中学校教諭として着任以来、保健体育科の指導を通して、心身ともに健康な生徒の育成に取り組むとともに、生徒一人ひとりの自己実現を図るという教育理念にもとづいて教育実践を重ね、常に生徒の思いを大切にした生徒指導に邁進している。

伊勢市内中学校の生徒指導主事のリーダーとして、各学校間の生徒指導トラブルを未然に防止するための情報ネットワークを確立するとともに、伊勢市青少年健全育成協議会を通じて、学校・地域で子どもたちを見守り育てる活動の推進に尽力した。

現任校においても、生徒指導主任として実践を進め、取組を発信しており、市内教職員の生徒指導の模範となっている。

⑤　東　　道章（南伊勢町立南島中学校　教諭）

本県中学校教諭として着任以来、数学科の授業研究をはじめ、人権学習・生徒指導等の実践研究に取り組んでいる。

数学科の授業研究においても、生徒が主体となるグループ活動を中心に据えた実践研究を推進し、教職員や地域から高い評価を得るとともに総合的な学習の時間における人権教育の指導の在り方について、伊勢度会人権学習交流会や県人権教育研究大会等で研究授業やレポート発表を行い県内の人権教育の推進に寄与した。

平成２８年度には県の学力向上推進に向け、ワークシート活用支援事業の数学科ワークシート作成委員として県全体の学力向上に尽力するとともに、平成３０年度には三重県人権学習指導資料検討委員会の委員として、人権教育推進に向け、資料開発及びそれを用いた授業実践を進め、県内の人権教育充実に貢献している。

⑥　水谷　愛（三重県立朝明高等学校　教諭）

本県高等学校家庭科教諭として奉職するも、学習指導要領の改訂により教科福祉の新設にあわせて高等学校教諭免許状（福祉）を取得してからは、高い専門知識を身に付け、本県の福祉科教育の発展に貢献した。

特に現任校においては、より充実した福祉教育の実践に向け、国の福祉政策や介護福祉士等の人材育成方針の改定に応じ、高等学校における福祉教育の在り方の研究、カリキュラム開発を率先して進め、同校のふくし科設置に向けた実務を成し遂げるなど、他校の福祉科や福祉コース等の範となっている。

また、平成２７年度全国産業教育フェア三重大会においては、「全国高校生介護技術コンテスト」を企画運営するとともに、高校生が意欲的に臨める充実したものとして確立し、今日の全国コンテストの礎を築いた。さらに、地域の社会福祉協議会等の関連機関とも連携した教育の充実に努めるとともに、地域の福祉界の充実にも貢献している。

⑦　齋藤　直樹（三重県立松阪高等学校　教諭）

本県高等学校教諭として奉職以来、情報科教諭として教科指導力の向上に努めるとともに、様々なかたちで地域との連携・協働の推進に努めてきた。

特に、現任校においては、担当する科目「SSH 発展探究」において、松阪市と連携し、高校生の視点から地域の生活の魅力を発信する方法を創意工夫し、フォトコンテストを実施した。また、担当した「SSH 探究情報」においては、松阪市をＰＲする広告作品の制作及びコンテストの企画運営を行った。これらの取組により、生徒の情報活用能力の育成及び、生徒が主体的に考え、社会とつながり貢献する力を育んだ同教諭の指導力は、地域、関連機関からも高い評価を得た。

また、顧問を務める放送部においては、地域と連携して大小様々な催しで放送・アナウンス業務を協働するなど、積極的に関わることで地域の活性化に寄与し、開かれた学校づくりに大きく貢献した。

⑧　山中　千聡（三重県立聾学校　養護教諭）

本県高等学校養護教諭として奉職以来、保健活動の充実に努めるとともに、特別な支援が必要な児童・生徒に対し、高い専門性をもって一人ひとりに応じた指導や支援を行ってきた。特に、現任校においては、未処置歯を有する児童・生徒が 71.3％と県平均の２倍以上の状態から、むし歯・歯肉炎だけでなく、咀しゃく・口唇閉鎖など関連する健康課題の改善に向け、家庭と連携した取組により、結果として 34.9％と飛躍的な改善に導くとともに、同取組を全国学校保健・安全研究大会等において発表し、高い評価を得た。

また、県教育委員会充指導主事を務めた豊かな経験や卓越した見識をもとに、県教育委員会主催の「養護教諭研修」においては講師を務めるなど、県内養護教諭の資質向上に尽力した。さらに、日本学校保健会より保健室利用状況調査委員の委嘱を受け、「保健室利用状況に関する調査報告」の編集に携わる等、学校内外を問わず学校保健活動の充実と発展に寄与した。

（２）教職員組織

○　いなべ市立十社小学校職員一同

平成２５年度から、電子黒板の使用や書画カメラの設置、タブレット端末等のＩＣＴ機器を有効活用した授業研究に取り組むとともに、ＩＣＴ機器が子どもの学習意欲を高め、学習内容の理解を深めるツールとして効果的であることを実証した。

こうした研究成果を県内の学校関係者に広め、県内のＩＣＴ機器を活用した教育の充実及び発展に大きく寄与している。

同校では、子ども同士が互いに学び合う協働学習と対話的・主体的で深い学びを意識した学習の実践研究を推進するなか、さらに、ＩＣＴ機器を活用し、より効果的な授業実践の実現をめざし取り組んでいる。